

会議録

会議の名称	平成29年度 第2回 所沢市自治基本条例推進委員会
開催日時	平成30年1月17日(水) 午後6時から午後8時まで
開催場所	市役所高層棟3階 301会議室
出席者の氏名	星野 泉、三上 誠、梅本 晶絵、大久保 統、北田 勝司、 高柳 進、萩本 眞一郎、藤田 由紀子、吉村 千代子
欠席者の氏名	齊藤 由希子
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 「みんなで考える市の仕事事業(10/14)」について (2) 住民投票条例について (3) 明治大学での住民参加に関する講座(11/28)について (4) 「平成29年度所沢市市民意識調査」の結果について (5) その他
会議資料	(1) 会議次第 (2) 資料1 平成29年度 みんなで考える市の仕事事業報告 (3) 資料2 平成27年度以降に実施された住民投票の実施事例 (4) 資料3 事例「滋賀県野洲市での住民投票」 (5) 資料4 明治大学での住民参加に関する講座(11/28) (6) 資料5 平成29年度版 所沢市市民意識調査報告書 (7) 資料6 平成29年度 市民意識調査 自由意見キーワード分析 (8) 追加資料 住民投票における成立要件の考え方について
担当部課名	経営企画部経営企画課 電話 04(2998)9027 経営企画部長 平田 仁 経営企画担当参事 鈴木 哲也 経営企画課 主 幹 市川 勝也 副主幹 大出 久美 副主幹 草薨 秀夫 主 任 溝井 麻美 主 任 木村 啓子 主 任 高野 大樹

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>開会后、星野委員長の進行により議事が進められた。</p> <p>(1) 「みんなで考える市の仕事事業（10/14）」について 事務局から条例に規定している「行政評価」の取組の一つとして 10月14日に実施した「みんなで考える市の仕事事業」について、説明を行った。</p>
委員長	この取組は、いつから実施しているか。
事務局	平成 22 年度の事業仕分けを皮切りに、平成 25 年度から「みんなで考える市の仕事事業」として、外部から意見をいただく視点で実施している。
委員長	参加者の年齢層は。
事務局	20 歳代が 1 人、30 歳代が 6 人、40 歳代が 6 人、50 歳代が 3 人、60 歳代が 4 人、70 歳代が 3 人だった。
委員長	広報などで募集したのか。
事務局	無作為抽出で 2,500 人の方に案内を送付し、募集した。参加者の年齢が偏らないように、送付している。
委員	当日私も参加させていただいた。事前に資料をいただき、付箋に意見を書いて当日持っていったが、模造紙に貼り切れなくらい参加者の皆さんがたくさん書かれていた。建設的な意見が出され、年齢もバランスよく世代間の意見交換もできた。
委員長	無作為抽出の効果が出てきたと感じる。無作為抽出の年齢設定はどうだったか。
事務局	18 歳～75 歳の方に設定した。選挙制度が変わったときから 18 歳以上としている。
委員	テーマの設定も良かったと思う。事業仕分けから市民参加の学習に変換させ、市民参加の拡大につながっている。
事務局	昨年度は市民意識調査でニーズの高いものを 4 つテーマとして設

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員長	<p>定していた。今年度は少し設定を変えた。</p> <p>テーマによっては、中学生、高校生まで年齢を下げて設定してもいいかもしれない。若いときから参加意識を持っていないと、18歳でいきなり参加をというのは難しい。子どもの市民参加ということからも検討いただきたいと思う。</p>
委員	<p>所沢市で力を入れているパラスポーツはあるか。</p>
事務局	<p>ゴールボールについては、国立障害者リハビリテーションセンターで国のチームが練習しており、ロンドンオリンピックの金メダリストである安達選手も市内在住である。また、市民体育館は、ゴールボールのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として国から指定を受けており、その施設を活用したらどうかといった意見ももらった。</p>
委員	<p>身内にハンディキャップを持っている者がいるが、ある年齢を過ぎると家に籠りがちになってしまう。アメリカには参加できるボランティア活動がいろいろあったが、日本にはない。国立障害者リハビリテーションセンターもあり、せっかくパラリンピックもあるのだから、障害を持った人達が集まって一緒に応援をするだけでも違うのではないか。裾野を広げ、誰でも参加でき、いろいろな人と触れ合える機会をつくってもらえたらと思う。</p>
委員	<p>参加者の満足度も高い。次回、無作為抽出で募集する際の通知には、ぜひ前回参加者の感想を記載して送っていただきたい。</p>
事務局	<p>対応させていただく。</p>
委員長	<p>「やった」で終わりではなく、いただいた意見を次に活かしていただけるようお願いしたい。</p> <p>（２）住民投票条例について 事務局から住民投票条例、過去の実施事例等について、説明を行った。</p>
委員	<p>野洲市の経緯の確認になるが、住民投票を進めようとしたのは反対派の議員だったか。</p>
事務局	<p>当初は、野洲市長が議会で予算を何度も否決されていたため、住民</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>の意見を確認する手段として住民投票を行うつもりでいたが、市議会から「進退を問う覚悟で住民投票に臨むこと」という内容の附帯意見が付けられ、見送ったという経緯がある。最終的に住民投票の請求を行ったのは、反対派の議員であった。</p>
委員	<p>野洲市の事例で、住民投票に要した額はどのくらいだったか。</p>
事務局	<p>開票は行われなかったが、投開票を含めた予算額は約1,600万円。野洲市の人口規模を考えるとかなりの金額ではないか。</p>
委員長	<p>人口5万人規模の自治体に市民病院を、というのは財政的にかなりリスクが高い。ただ、こうした案件は住民投票の対象テーマとしては悪くない。地方自治法の1/50以上という条件を考えると、常設型での必要署名数のハードルはかなり高く、そこまで到達するのが難しい。</p>
委員	<p>意見を述べようにも変数が多すぎて考えがまとまらない。人口規模の大きなところで常設型というのは危険だとは思いますが、市民や議会、人口規模、選挙など様々な点を考慮すると、この制度に対して妥当な線が見えにくくなる。続けて検討してほしい。</p>
委員	<p>常設型で投票が成立した事例はあるのか。</p>
事務局	<p>今回は、所沢市で投票を行った平成27年以降の案件に絞って事例を調べた。調べた範囲では、常設型で成立要件を満たした事例は見当たらなかった。</p>
副委員長	<p>本委員会において、継続的に住民投票の件を扱っている。所沢市で実施した住民投票は個別設置型であったが、投票率はわずか3割にとどまっている。はたしてこの投票率で、民意を反映していると言えるのかが問題。5割～7割が投票しなければ民意ではないと思う。個別・常設にとらわれず、投票を促すことに重きを置いた独自の条例を、所沢市として考えても良いと思う。</p>
事務局	<p>平成27年度に制定した「所沢市市民参加を進めるための条例」第10条には、市民が、選挙における投票の機会を積極的に活用するよう努めるという条項を規定した。投票に特化した条例ではないが、当時の委員の思いもあり、要素を盛り込んでいる。独自の条例となると全国的にも例がないためさらに議論を深める必要がある。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
副委員長	<p>そのような条例を作ってはいけないものか。成立要件を設定して住民投票をやったとすれば、みんなが投票率を上げる努力をすべき。せめて半分の投票がなければ実施する意味がないのでは。</p>
事務局	<p>作っていけないものではないと思う。</p>
委員長	<p>投票率が上がらないのは大きな問題だが、日本の場合、日常の中で政治的な発言がタブー視される傾向にあることも影響している。芸能人がSNSで政治的な発信をして炎上騒ぎになるのは、そうした風潮によるものと思う。そういうものの延長に選挙に行かない文化があり、そこを直さなければ難しい。</p> <p>所沢市での住民投票について、もし成立要件があって、開票していなかった場合、冷房設備の工事という判断には至らなかったかもしれない。何千万円もかけて投票を行った以上は開票すべき。開票しないのであればやらない方がいい。条例があっても署名数などの条件があり、投票実施までのハードルが高い。所沢市独自の方法を考えることも大事である。</p>
委員	<p>投票率は、対象案件の性質によって左右されるものと思われる。</p> <p>また、別の側面として、住民投票における投票率が高い場合、それは市民の総意とみなされ、首長の裁量を制限するという見方もできる。首長を選出した選挙と、住民投票とで、それぞれの結果をどのように捉えて判断するのかという問題も生じ、政治的なリスクもはらんでいるため、慎重に議論していく必要がある。</p>
副委員長	<p>所沢市の投票率が低かったのは、賛成多数という結果をあらかじめ予想していたからではないかと考えることもできる。議会が住民投票をすべきか慎重に決定し、やる以上は投票率を上げる努力をし、開票をすべき。野洲市民も人口5万人の市で91億を投じる病院が本当に必要なのか考えたと思う。だからこそ拮抗していたのでは。所沢市でもそんなお金はかけられない。</p>
委員	<p>所沢市に当てはめたとしたら、いくらになるか。</p>
事務局	<p>人口が7倍なので、単純に計算すれば7倍相当の額になるかもしれない。昨年度開館した、こどもと福祉の未来館でも30億円超の事業費だった。</p>
委員長	<p>財政問題は大きい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
副委員長	そういった部分が投票率に左右する部分ではないか。
委員	住民投票の実施に至るまでの背景が左右していると思う。
委員	狭山ヶ丘中学校という市西部の案件であったため、同じ市内在住者であっても、エリアによって関心に差があったのかもしれない。
委員長	投票率はその地区だけ高かったのか。
事務局	エリア的、世代的、性別的に見て投票率の偏りはあったようだ。
委員長	仮にエリアや世代によって差が生じた場合、投票率 31.54%を高いと見るか低いと見るか。全市的に見れば決して低くはないのかもしれない。人口が多いから間接民主主義の意味がある。また、同じ投票率であっても、人口規模が膨らめば、それだけ投票率を確保するのが難しくなる。
委員	国政選挙の投票率はどの程度か。
事務局	国政選挙は 50%以上の投票率がある。知事選や市議選は 30%から 40%程度。
委員	それらを考慮すると特定の地域を対象にした案件としては高かったのではないか。
委員	案件によって投票率に大きな差が生じる。成立要件を数値でコントロールする合理的根拠は発見しがたい。
委員長	今後、常設型をつくる機運が高まったとしても、成立要件を設定するくらいなら最初から作らない方が良い。
委員	条件や気候によりいろいろと違って来る。一概には言えない。
委員	例えば常設型にする場合、予算額によって成立要件を変えるということは可能か。
事務局	条文等に盛り込むことで可能である。
委員	数値を設定する場合は、十分な勉強と検討が必要となる。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>（３）明治大学での住民参加に関する講座（11/28）について 事務局から11月28日に明治大学で実施した住民参加に関する講座について、説明を行った。</p>
委員	<p>その授業の時だけ学生を募集しているのか。</p>
委員長	<p>後期の3、4年生科目で選択性の授業である。半期科目として、13～14回、毎回違う地域に関するテーマで実施している。</p>
事務局	<p>流れとしては、地方行政の講義を行うコマをいただき、その中で市民参加の手法の一つであるワークショップの体験をしてもらおうと、こちらから提案させていただいた。</p>
委員	<p>私の学校でも外部から講師に来てもらうことがあるが、所沢市のメリットを考えると、テーマを所沢市のメジャーな課題に設定し、事前に所沢市の情報を学んでもらったうえで、学生に意見を出してもらおうと一石二鳥かと思う。</p>
事務局	<p>次回、そういった機会があれば、意見をいただきたいテーマを設定して実施したい。</p>
委員	<p>所沢市にどうしたら来てもらえるかを結果的に聞き出すために、授業としてワークショップの方法を取り、地域間競争をテーマとしてグループインタビューを行うのが良いと思う。</p>
委員長	<p>「みんなで考える市の仕事事業」の際にも年齢層を下げてという話をしたが、中学生、高校生、大学生版のようなものがあったとしても良い。場合によっては、この自治基本条例推進委員会に関わる方法などがあってもおもしろいかもしれない。</p>
委員	<p>どこへ行ってもできるように様式化すると良い。住民投票のデータを見せて、考えてもらってもいいのでは。</p>
委員長	<p>若い人たちに知ってもらわなければ、投票率は上がらない。</p>
	<p>（４）「平成29年度所沢市市民意識調査」の結果について 事務局から平成29年度所沢市市民意識調査の結果概要について、説明を行った。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>自由意見を全部見たが、自治基本条例に関する意見はなかったようだ。自治基本条例が定着しているということだと考えている。43%も回答があるのはすごい。住民参加が非常に高くできているので、自治基本条例に対する批判も賛成もないということだと思うが、市としてはどう考えるか。</p>
事務局	<p>逆に自治基本条例の存在があまり知られていないということも懸念される。無作為抽出で手紙が来ても、それが市民参加を進めるための条例に基づいて実施しているものという意識が、あまりされていない可能性もある。認知度を上げたうえで、ポジティブな意見が増えていくよう事務局としても進めていきたい。</p>
委員	<p>自治基本条例に問題があれば鋭角的な意見が出る。出ていないということは問題がないとも言える。</p>
事務局	<p>所沢市民は全体的に関心の高い方が多いと日頃の業務を通じて感じている。伝えたことによって行政が動いていくことを、身近に感じていただいているのでは。</p>
委員長	<p>自治に関わりたいから住民でいるわけではない。例えば議会と首長の意見が違った時に、意見を出せる場があるかどうかなので、市民意識調査に出てくるテーマとは違うという気もする。「エアコン」のキーワードは多い。住民投票への関心が高かったものと感じる。 きちんと書いて出してくれるというのも自治である。</p>
副委員長	<p>愛着、定住意向とても高いが、どの視点と結びついているのか。</p>
事務局	<p>今回については、まだそこまでの分析ができていないが、クロス集計により確認することは可能。過去に確認した際には、愛着・定住意向の高低と、意見のポジティブ・ネガティブに明らかな関連性は見られなかった。</p>
副委員長	<p>キーワード分析ではネガティブな意見の方が多。弱みは改善し、強みの部分を引き延ばせたらいいと思う。何があるから愛着・定住意向が強いのかというところを分析してもらいたい。愛着があると答えた人に対して、どこに愛着を持っているのかを聞くなど、所沢市の強みについて、細かく分析できるといいと思う。</p>
事務局	<p>愛着・定住意向がある人に対して深掘する方法はいい提案である。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>設問を設定するなど調整可能であるため今後検討していきたい。</p> <p>比較的若いワーキング層の年代を多めに、なぜ所沢市に住んでいるのか、愛着を感じるようになったのはいつ頃からか、もう少し的を絞って、一度これとは別にアンケートをやってみたらいいかもしれない。</p>
副委員長	<p>知り合いの南ドイツの州大使が、所沢市のことを、みどりがあって街が形成されているところは日本ではなかなかない、航空記念公園を上から見ると、自分の故郷を思い出すと言っていた。今後そういった外国の方からの意見も抽出してみたらどうか。</p>
事務局	<p>キーワード検索でも分かるとおり、「みどり」「文化芸術」についてはポジティブイメージが比較的高い項目である。所沢市の魅力はそういったところにあるのだろうと想像はつくが、愛着や定住意向が高い方から、ポジティブな意見が多いというわけではない。どこに愛着を感じるかという設問を追加することで、関連性を見出すことができると思われる。</p>
委員長	<p>考え方はいろいろあると思うが、問7の景観・街並みに関する設問や、問8の居住環境の設問を見ると、みどりが多いという環境の良さを住みやすいと考えるということかもしれない。面積が広く駅の間隔が離れていること、みどりが多く都内から来る立場としては、道路は広くて走りやすいと感じる。報告書全体を見ると、地域活動への関心はあるが、審議会には忙しいという理由で参加したくない方が多い。地域活動への参加や自治会加入についてはどのような状況か。</p>
委員	<p>自治会加入率は、マンションの管理組合が自治会に加入するかしないが大きく関係してくる。自治会に入らないマンションも多くあり、開かれたマンションであれば加入率はもっと上がる。まず地域活動に参加してもらうことが大切で、参加することから役員意識も向上していくと思う。</p>
委員長	<p>マンションだと生活スタイルが違うので、どう取り込んでいけるかだと思う。</p>
副委員長	<p>労働環境に関する設問はどこか。</p>
事務局	<p>個別の設問ではなく、施策体系のひとつとして「労働・雇用環境」に対する要望度・満足度を伺っている。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p data-bbox="517 277 695 353">（４）その他 特になし。</p> <p data-bbox="1254 322 1315 353">以上</p>